

新潟県立万代島美術館 令和3年度評価シート

中間・最終報告： 取組終了 取組継続中
 総評内容： 評価すべき点 検討課題

分野	重点的な事業目標	令和3年度の取組	事業目標・取組に対する達成状況	事業目標・取組に対する達成状況	自己評価	協議会評価
			中間(12月31日現在)	最終	総評	総評
展覧会	美術館利用者の拡充を図る。 【R1～】	展覧会の内容に応じた、効果的な広報を工夫するなど、様々な観客層に訴求する。 [大地のハンター展] [サンリオ展]	<ul style="list-style-type: none"> ■ [大地のハンター展] 展覧会監修者である国立科学博物館研究員からのメッセージが入った小型のチラシを県内小学校等の児童に一人1枚配布。展示内容への興味を喚起し、来館の動機付けに有効だった。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ [サンリオ展] 話題づくりのためA4サイズチラシを4種作成。また、展示室内を全て撮影可能とすることで、来館者によるSNSの発信を容易にし、口コミの拡散に効果があった。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 日本画、洋画の展覧会からキャラクター、自然科学系の展覧会まで幅広いジャンルの展覧会を開催したが、予想される来館者層にあわせた広報を行うことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 目標に照らして、従来の展覧会にとらわれない取組は、美術館を知ってもらい、足を運んでもらうという意味でもとてもよかったと思う。 ◎ 大地のハンター展は、美術館の境界を越えた試みで、様々な角度で動物等を見ることができ、観覧者にはふれあい動物園との混同もあったようだが、教育普及効果も大きかったと思う。 ◎ サンリオ展はキャラクター展であったが、その歴史的を当てていたため、幅広い世代が楽しめる展覧会であった。美術館初心者が多い時、こちら側としても運営の工夫を学ばされる。
		公式ホームページやSNSを通じ、展覧会や出品作品に関する情報を継続的に発信する。	<ul style="list-style-type: none"> ■ [芳年展、福富太郎の眼展] 展示解説動画を公式YouTubeでも公開。 ■ [大地のハンター展] SNSについて、著作権等の制限が少なく自由度が高かったため、漫画とのコラボやグッズなどの情報を含めて頻繁に発信した。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ [サンリオ展] キャラクター使用に関して条件の厳しい展覧会ではあったが、共催メディアの協力により、展覧会公式Twitterで会期中ほぼ毎日展覧会情報を発信することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 著作権等の処理が難しい展覧会もあったが、関係者と丁寧に調整し、ホームページやSNSでの発信を継続的に行うことができた。また、YouTubeで解説動画配信、という新しい試みも行い、好評だった。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 美術館のアウトリーチとして多様な情報発信の方法を、意欲的に試している点が評価でき、継続していただきたい。観覧者数増にも結び付いている。 ◎ キャラクターについて、著作権への対応など丁寧にやっている。 ◎ それぞれターゲットや内容に応じてSNS、CM、YouTube、来館者の口コミなど様々な方法で魅力がアピールできて興味を喚起する効果的な広報ができ、利用者の拡充が図れていた。
教育普及等 関連事業	美術を通じた学びや交流に広がりを持たせる。 【R1～】	巡回展であっても、当館の施設的な特徴や来館者層を踏まえながら、より満足の得られる美術館体験ができるよう独自の工夫をする。 [福富太郎の眼展]	<ul style="list-style-type: none"> ■ [福富太郎の眼展] 旧福富太郎コレクションの戦争画を新潟独自に借用し特別出品として加えることで、展示内容をより充実させることができた。 ■ 保有する展示面積を活かしゆったりとした空間に主要作品を効果的に配し、さらに展示ケースの位置に合わせて展示構成の一部を入れ替えることで、統一性と鑑賞しやすい空間作りが実現した。 ■ 外部業者への関連グッズの委託販売がかなわず、代替として受付職員による特設ショップを初めて開設し、来館者のニーズに応じた。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ [サンリオ展] 当館独自で、ロビーに記念撮影用のキャラクターパネルを設置。会期中に4種を入れ替えることで、リピーターの満足度向上を計った。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎ すべて巡回展であったが、当館の展示室の特徴や、来館者の傾向を踏まえて、独自の工夫を加えることができた。 ◎ R2年度末のショップ運営会社撤退以降、開催展覧会ごとにショップの運営方法を検討しなければならぬ状況が続いているが、R3年度は形態を変えながらも図録やグッズ販売を実施、来館者のニーズに応えることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 館の独自性や来館者の満足度を高めるための取組を着実にやっていることを評価する。 ◎ 福富太郎の眼展では先開催の東京ステーションギャラリーでの展示と比べると、空間がゆったりとしていて、大きな作品もゆとりをもって展示されており情緒的なスケールの大きさを感じた。館独自の企画として膨らませた戦争画は見応えがあった。 ◎ ショップについては、都度苦心して設置し、来館者サービスに努めていた。 ◎ 高校生の見学が事前の出前授業と併せてできたことは画期的なことと思う。高校の先生が授業で生徒に見せたいような企画を今後も継続できると良いと思う。
		来館者がよりよい鑑賞体験ができるように努め、他館の事例などにも学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> □ コロナ禍における美術館での教育普及活動について、他館での実践例などの情報を収集。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ ミュージアムにおけるファンディングに関するシンポジウム（オンライン）、経産省補助金を活用したビジネスモデル創出のワークショップに参加。他館での事例や新しい試みについての情報を収集した。 	<ul style="list-style-type: none"> ▲ 情報収集は行っているものの、当館での展示や運営にそのまま活かせるような事例は未だ少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 人数は限られているが、全員が意識を持ち情報収集している点は今後も続けて欲しい。 ▲ 「美術」ではなく「総合的な学習の時間」の新潟市内巡検のコースに万代島美術館を選択してもらえると、美術への興味関心につながる機会になると考える。したがって公共文化施設であり中学生は無料であることなども含め、年度末と年度初めに「総合学習」での利用促進を集中的にPRをすると活用につながり、リピーター獲得のチャンスだと思う。 ▲ 学校との連携として出前授業の他に、テレビ会議システムを活用してほしい。
調査・研究、 収集・保存、 発信	館の独自性を主張できるよう、広く美術や美術館活動に関する情報を集める。 【R1～】	展覧会に限らず、美術一般に関する学びの場を提供する。	<ul style="list-style-type: none"> ■ 友の会主催の「アートカフェ」、「にいがた市民大学」での講演や、学校への出前講座など、館外でも学びの場を提供。 	特記事項なし	<ul style="list-style-type: none"> ◎ コロナ禍で未だ数は多くないものの、学校への出前講座や市民大学での講演など、依頼に応じた活動を行うことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎ コロナ禍下においても、個々の学芸員が専門を活かしながら、出前講座や市民大学等に取り組んでいる点が評価できる。 ▲ 講座等の実施件数については、次年度以降の具体的な数値目標を検討する必要がある。
		資料や文献調査、研修や研究会参加などの活動をとおり、各学芸員が自らの資質を高めるべく努力する。	<ul style="list-style-type: none"> ■ 大正イマジユリ学会参加（*オンライン） □ 各学芸員が、所蔵作品・作家や県ゆかり作家について、図書館等で資料調査等を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 各学芸員が、所蔵作品・作家や県ゆかり作家について、図書館等で資料調査等を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎ コロナ禍で、調査が未だ困難な状況にあるが、所蔵作品や県ゆかり作家への調査を地道に継続できた。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 所蔵作品や作家、県内ゆかりの作家の研究は地道で、展覧会や紀要などの締切りとなる目的がないとなかなかできないが、HPでの発信を計画的に行うことによって進められていることは、他館も真似るべき素晴らしいことと思う。
環境・施設	来館者に快適な環境を整える。／作品保存・展示に最適な環境を維持する。 【H24～】	展示解説、鑑賞講座、図録、紀要、HP等で成果を発表する。	<ul style="list-style-type: none"> ■ [芳年展、福富太郎の眼展] コロナ対策に留意しながら、ギャラリートークや鑑賞講座等を実施できた。 ■ 「コレクター福富太郎の眼」展図録への寄稿 ■ 県ゆかり作家について学会誌に寄稿（大正イマジユリ学会） □ HPに学芸員の調査研究等を紹介するコラム（B-island）を掲載（現在までに13回） 	<ul style="list-style-type: none"> ■ HPに学芸員の調査研究等を紹介するコラム（B-island）を掲載（全16回） ■ 「新潟県立近代美術館研究紀要」を発行。近代美術館の学芸員2名の論文を掲載。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎ コロナ対策に留意しながらギャラリートークや鑑賞講座を実施できた。 ◎ HPでのコラムで、学芸員が日々行っている調査研究の成果の一端をお知らせすることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 企画展関連、所蔵作品を中心に調査研究活動を地道に行い、従来の方法だけでなく、HP等、SNSでの研究成果の発表、発信もして、県民に向けた情報発信を積極的におこなっている点が評価できる。HPのコラムはちょうどよいボリュームで読むことができ、楽しめるとても良い企画である。無理しすぎない範囲で、ずっと続けてほしい。
		施設の保全環境を見直し、修繕が必要な箇所を洗い出し、計画的に実施する。	<ul style="list-style-type: none"> ■ 展示室入口付近の照明の交換工事を行った。 ■ 木製ベンチのささくれ立ちを保護するためベンチカバーを制作した。 	特記事項なし	<ul style="list-style-type: none"> ▲ 万代島ビルと、設備の更新や修繕について引き続き協議しているが、県財政の厳しい状況から、今年度も大きな進捗はなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ▲ 財政難で仕方がないが、不具合は都度担当課に認識してもらっておき、少しゆとりができた時に回してもらえるよう手を打っておくしかない。わずかずつでも来館者サービスとして修繕できると良い。
環境・施設	新型コロナウイルス感染症拡大防止のガイドラインののった施設運営を行う。	利用者の利便性を高めるための課題を見だし、改善を検討する。	<ul style="list-style-type: none"> ■ コロナ助成金を活用して、検温モニターを新たに設置。 ■ [大地のハンター展] 会場内の混雑を回避するため、整理券配布による入場整理を実施。 	<ul style="list-style-type: none"> □ [サンリオ展] 3月半ばから来館者数が伸びたが、共催メディアとも協力し、混雑を回避できるよう、開館時の入場整理やショップでの待機列整理などを行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 「大地のハンター展」「サンリオ展」では4万人を超える来場者があったが、共催メディアとも協力し、ガイドラインののった対策をとることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎ コロナ禍下で以前にはない苦勞ではあるが、工夫して運営し、来館者に混乱もなく、混雑を回避して楽しむことができていた。 ▲ 来館するまでの導線がどうしても過密になるため、コロナ対策は難しいと思うが、今後緩和していく方向を考えてほしい。
		利用者の利便性を高めるための課題を見だし、改善を検討する。	<ul style="list-style-type: none"> □ クレジットカード、電子マネー支払いへの対応を当館を含めた県の施設で導入準備中。 □ コロナ対策としての入場予約システムについて情報を収集。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 2022年3月以降休止していた過去開催図録の販売を再開。 ■ 次年度開催の「THE HEROES展」の前売券販売に電子チケットを導入。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 電子前売チケットの導入や、過去図録の販売など、来館者のニーズにあわせた改善を行うことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 電子チケットの導入やキャッシュレスに取り組み、来館者の利便性を高める施策を進めている点が評価できる。ぜひとも周知をしっかりと取り組んでほしい。

新潟県立万代島美術館 令和3年度評価シート

中間・最終報告： 取組終了 取組継続中
 総評内容： 評価すべき点 検討課題

分野	重点的な事業目標	令和3年度の取組	事業目標・取組に対する達成状況		自己評価	協議会評価
			中間(12月31日現在)	最終	総評	総評
協働組織	近隣施設等と連携・協働する。 【H22～】	4館(近美・万美・市美・新津美)による新潟アートリンクを継続し、協働事業の計画や情報交換を行う。	<input checked="" type="checkbox"/> アートリンク普及部会において、教員を対象にした意見交換会・研修会を開催(7/26)。当館からは学芸員3名が参加。 <input type="checkbox"/> 次年度も同様の事業実施を目指し、4館で準備を進めている。	<input checked="" type="checkbox"/> アートリンクで4館掲載の年間スケジュールを作成。絵本や書籍に関する展覧会が多いことから、県内図書館への協力依頼も実施。 <input type="checkbox"/> アートリンク普及部会で令和4年度も教員対象の研修会を企画。準備を進めている。	<input checked="" type="radio"/> アートリンク参加4館で協働し、普及部会の主催で初の研修会を開催することができた。	<input checked="" type="radio"/> 新潟アートリンクは様々な可能性があると思う。4館という少ないからこそその機動力が可能性を広げている。様々な切り口によるアートシーンの提示に挑戦して、話題作りをしてほしい。 <input checked="" type="radio"/> 小中学生の美術館の利用拡大のためにも教員向け研修会は今後も続けると良いのではないかと。
		友の会やボランティアなど、既存の活動を継続しつつ、新たな協働活動を模索する。	<input type="checkbox"/> [サンリオ展] 万代島ビル31階展望フロアにて、日航ホテルとサンリオとのコラボカフェを準備中。伊勢丹新潟店、アピタ新潟亀田店のサンリオショップではサンリオ展半券提示で買い物時に粗品プレゼントを実施する予定。いずれの企画でも、相互に誘客や広報面で協力する。	<input checked="" type="checkbox"/> [サンリオ展] 当館での開催にあわせ、ホテル日航新潟がサンリオ展コラボカフェを実施。協働によって朱鷺メッセ周辺の賑わいづくりに貢献できた。	<input checked="" type="radio"/> 友の会やボランティアとは従来の活動を継続するにとどまったが、サンリオ展で行ったホテル日航でのコラボカフェについては、次年度以降の展覧会でも計画が進んでおり、今後の協働も期待できる。	<input checked="" type="radio"/> 友の会、ボランティアや、朱鷺メッセ内や佐渡汽船、万代・古町、みなとびあなど立地条件を生かすなど、近隣施設との協働は、可能性を探りながら工夫して、地域における存在感もさらにアップさせてほしい。 <input checked="" type="radio"/> 4館共通の年間割引チケットを考えてほしい。 <input checked="" type="radio"/> これまで培った外部との繋がりがや、学芸員の皆さんの持てる力が存分に発揮され、協働により、アートが人生の楽しみや豊かさに繋がる都会的な美術館を演出してほしい。